京都の遺跡 10

桃　山　時　代

（財）京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

写真1　調査で見つかった醒ヶ井通と現在の醒ヶ井通（北から）

写真2　御香宮の西、伏見城武家屋敷の門跡（北東から）

戦国の争乱が終結し、天下統一が達成された桃山時代は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康らの活躍や、「豪華絢爛（ごうかけんらん）」「わび」「さび」と表わされる文化の隆盛から、なじみ深い時代であることと思います。歴史の大きな変換点であったこの時代、京都にも短期間のうちに多大な変化が起こりました。

信長入京　足利義昭を奉じて入京した織田信長は彼のために居館を造営します。現在「旧二条城」と呼ばれている遺跡です。約20年前の地下鉄烏丸線建設に伴う調査で堀と石垣が発見され、それまで場所がわからなかった義昭邸が、北は出水通、東は東洞院通、南は丸太町通、西は新町通の内にあることが推定できるようになりました。また、この調査は桃山時代の遺跡が最初に注目をあびた意味でも大きな意義をもつものでした。

やがて信長は義昭を追放し「天下布武」に向けて邁進（まいしん）しますが、明智光秀により本能寺に斃（たお）されます。調査では本能寺の痕跡は見つかっていませんが、いつか信長とともに失われた名物茶器が出土することを期待したいと思います。

秀吉の京都改造　信長の後を受けて、京都支配を進めたのが豊臣秀吉です。彼は大坂を本拠地に定め、一方で京都を直轄地として整備するための改造を行ないました。

最初の事業が聚楽第（じゅらくだい）の造営です。聚楽第は天守閣や堀を備えた城郭で、平安宮の旧地に築かれました。推定地では多くの調査が行なわれていますが、大宮通中立売で発見された東内堀（ないぼり）を除けば、明確な遺構は見つかっていません。しかし、周辺の広い範囲で金箔瓦が多数出

略年表

室町時代	桃山時代															江戸時代
1568	1569	1573	1577	1582	1587	1590	1591	1594	1595	1596	1598	1600	1602	1603		
織田信長、入京	義昭邸（旧二条城）造営	京町幕府滅亡 信長、義昭を追放	南蛮寺破壊式	本能寺の変、信長死去	北野の大茶会 聚楽第造営	秀吉、京都の地割改変に着手	御土居築造 公家町・寺町形成 京中屋敷替え	伏見城造営	聚楽第破却 方広寺建立	慶長大地震	秀吉死去 醍醐の花見	関ヶ原の戦い	徳川家康、二条城造営	家康、江戸に幕府を開く		

大名屋敷金箔瓦

一条通邸屋敷キリシタン墓碑

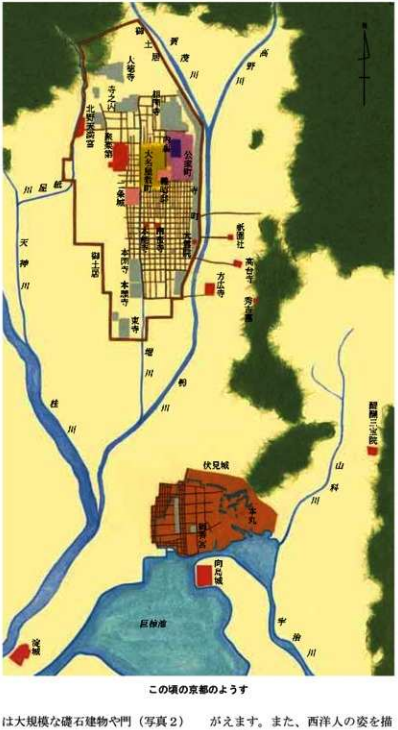
土しており、大名屋敷町が形成されていたと考えられます。

また、秀吉は京内各所の公家屋敷や寺院をまとめ、公家町・寺町を形成しました。公家町は現在の京都御苑に重なるので調査がほとんどありませんが、寺町の一角の仏光寺通寺町東入る大雲院跡では江戸時代初頭に埋まった井戸などが見つかっています。

さらに、秀吉は平安京以来、一町四方（一辺約120 m）であった町割の東西中心に南北方向の街路を貫通させ、南北に細長い短冊形地割を施行しました。御幸町通・堺町通・釜座通・醒ヶ井通・岩上通などの街路はこの時にできたものです。堀川通鎗上る堀川高校内では江戸時代初頭に埋め立てられた醒ヶ井通を発掘しています（写真1）。東側は柵、西側は堀で区画されており、当時の街路の様子がわかる重要な成果となりました。

改造の仕上げは京都を囲む御土居の建設でした。御土居とは北は鷹ヶ峯、東は鴨川、南は九条、西は紙屋川に沿った約22.5kmにおよぶ土塁と堀のことで、現在は9箇所が史跡に指定されています。大部分は地上に残っていませんが、八条九条間の油小路通東側や中央市場内では幅15～20 mにおよぶ堀を発掘し、多量の木製品などの遺物を採集することができました。

秀吉の伏見築城　一方、秀吉は京都南郊の伏見に新たな城を造営しました。伏見城です。天守閣は現在の明治天皇陵付近にあったと推定されており、桃山丘陵各所で石垣が発見されています。城下では大規模な礎石建物や門（写真2）が見つかっていることや、大量の金箔瓦が出土することなどから、大名屋敷が建ち並んでいたことがわかります。また商工業者の居住地も整備され、ここに伏見の街の中核が形成されました。



この頃の京都のようす

桃山文化　この時代を特徴づける遺物には市内各所から出土する茶陶をはじめとした様々な工芸品があり、文化の盛行のほどがうかがえます。また、西洋人の姿を描いた硯・ポルトガル語木簡・キリシタン墓碑も出土しており、ヨーロッパ文明の与えた影響がわかります。

市内では今も秀吉が通した街路が利用され、寺町通には寺院が建ち並んでいます。大名屋敷や御土居にちなんだ町名も残されています。桃山時代の遺跡は現代にも息づいているのです。（山本　雅和）